分科会活動報告

2019年度環境アレルギー分科会活動報告書

平　久美子

東京女子医科大学東医療センター麻酔科

1．概要

2018年に発足した日本臨床環境医学会環境アレルギー分科会の会合は、2019年４月から2020年３月までの間に、計５回開催された。開催場所は、同学会理事の東京工業大学 鍵直樹教授の取り計らいで、毎回、同大学田町キャンパスの会議室を無料で使わせていただいた。2019年６月23日開催の第28回日本臨床環境医学会学術集会の分科会セッションにおいて、演題名「環境アレルギー問題の現状と課題：各種アレルゲンに対応した原因と対策の横断的取り組み」を口頭発表した。そのまとめとして第１回報告書を作成し、学会誌「臨床環境医学」上でWEB公開予定である。

2．分科会メンバー

医学分野：谷口正実（湘南鎌倉総合病院臨床研究センター）、渡井健太郎（国立病院機構相模原病院臨床研究センター呼吸器アレルギー科）、角田和彦（かくたこども＆アレルギークリニック）、阪口雅弘（麻布大学獣医学部）、白井秀治（環境アレルゲン info and care 株式会社）、高岡正敏（（株）ベスト マネジメント ラボ）、東賢一（近畿大学）、高野裕久（京都大学）、釣木澤尚美、押方智也子（平塚市民病院アレルギー内科）、平久美子（東京女子医科大学東医療センター麻酔科、代表）

物理・化学分野：関根嘉香（東海大）、成田泰章（暮らしの科学研究所）、篠原直秀（産業技術総合研究所）

建築分野：吉野博（東北大学）、池田耕一（日本大学）、野崎淳夫（東北文化学園大学大学院、副代表）、一條祐介、二科妃里（東北文化学園大学大学院）、鍵直樹（東京工業大学環境・社会理工学院建築学系）、柳宇（工学院大学）、長谷川兼一（秋田県立大学）、三田村輝章（前橋工科大学）、金勲、林基哉（国立保健医療科学院）、山野裕美（（株）シミズ・ビルライフケア、幹事）

3．今年度の研究テーマと検討内容

アレルギー疾患とは、特定の抗原（アレルゲン）に対する生体の免疫応答が過剰に誘導され、かえって生体に不利益を与える病態を指す。治療には、免疫応答を調整することが目的のステロイドや抗アレルギー薬などの薬物療法、および減感作療法などの免疫療法が、永らく主流を占めてきた。

ところが治療薬の進歩とは裏腹に、喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患の有症率は世界的に増加の一途を辿り、その傾向は子どもで顕著である。その原因として大きく分けて二つ、衛生仮説と環境アレルゲンが想定されている。

衛生仮説とは、約30年前から提唱されている生活環境の変化に伴う免疫応答の過剰な活性化である。小児期における極端な無菌環境は、その後の免疫応答の成長に負の影響を与えると言われている。一方、環境アレルゲンの増加は、同じく約30年前から顕著になった室内環境の劇的な変化、すなわち省エネルギー対策としての住宅の高機密化、高断熱化による室温上昇、室内湿度上昇によ

表　日本臨床環境医学会環境アレルギー分科会発足以降の検討内容

カテゴリー	情報提供者と演題名	日時
総論、疫学	谷口正美、渡井健太郎：環境アレルギー問題の現状と課題～健康被害と治療	2018.3.22
	長谷川賢一：児童のアレルギー性症状と居住環境要因との関連性に関する調査研究	2019.5.31
	金勲：複合汚染	2019.6.23
	吉野博：環境アレルギー対策と今後の課題	2019.6.23
ダニ、ハウスダスト	白井秀治、阪口雅弘：ダニによる室内環境汚染の実態	2018.3.22
	高岡正敏：ダニの生態とアレルギー	2019.8.8
	白井秀治：家庭で実施し得るダニ対策とその効果について	2020.1.17
	高岡正敏：ベッドに敷いた炭の効果	2019.11.21
	鍵直樹：ハウスダストと粒子飛散に関する研究	2018.3.22
	野崎淳夫：対策技術とその限界	2018.3.22
	三田村雅章：空気清浄機能を搭載した全館空調住宅における転居前後の室内アレルゲン量と居住者のアレルギー症状に関する調査	2020.1.17
カビ	柳宇：諸環境中浮遊真菌濃度	2019.6.23
	釣木澤尚美：東北地方におけるカビに関する実態調査	2019.11.21
花粉	山野裕美：建築物と花粉の関係	2018.3.22
イソシアネート	角田和彦：アトピー性皮膚炎やアレルギー、化学物質過敏症における環境中のイソシアネートに対する感作状態－トルエンジイソシアネート（TDI）IgE 値の状況－	2019.5.31
室内化学物質	関根嘉香：室内化学物質	2019.3.22

るものが主に問題視されている。このほか、大規模災害により住みなれた住居を失った人のための仮設住宅の中の環境アレルゲンの問題も報告されている。

そこで我々は手始めとして、アレルギー問題を環境アレルゲンの観点から整理し、環境アレルゲンの測定法や環境改善によるアレルギーの防止対策を学際的に検討し、まとめることにした。

各委員から情報提供を受け検討した項目を表に示す。

４．次年度以降の取り組み

第29回日本臨床環境医学会学術集会において、外部講師を招聘し、分科会シンポジウムを開催予定である。今後、第１回報告書を基に引き続き各委員どうしの情報交換を行い、アレルギー疾患を予防改善するための室内環境の改善案について、各対策のリストと推奨度を検討し、一般向けの情報提供を目指している。